

# 仙台市の財政見通しと対応の方向性

資料

6

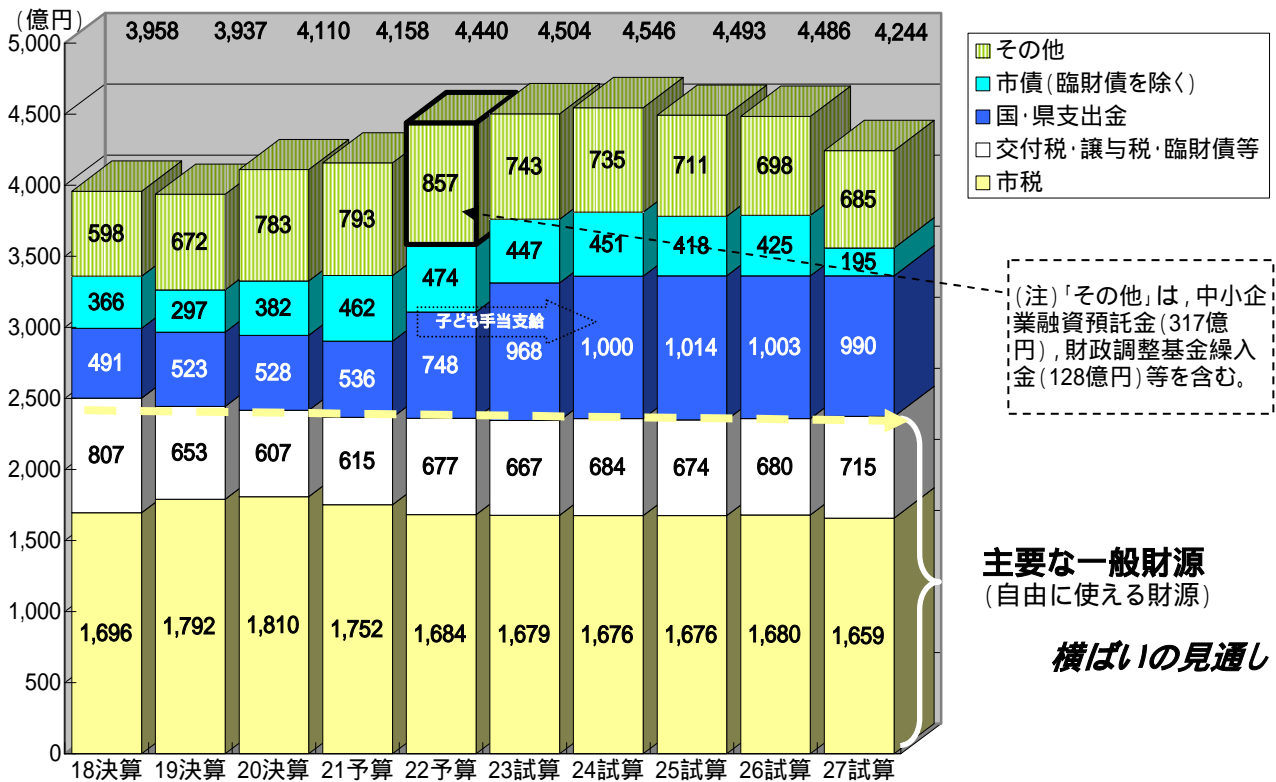
## 1 仙台市の財政見通しの概要

子ども手当に係る国庫支出金など大幅な増加要因はあるものの、景気後退の影響により、歳入の根幹である市税収入は低い水準が続き、当面回復は期待できない。

一方、少子高齢化や、今日の経済情勢を反映した社会福祉関係経費の増加により、歳出総額は大幅に増加する見通し。

今後、**収支不足額は一層拡大**していく見通し。

## 2 歳入の見通し



法人・個人市民税を中心に景気低迷が大きな影響を及ぼし、市税全体は落ち込んだ状況にある。今後も、こうした傾向は継続する見通しであり、回復を期待することはできない。

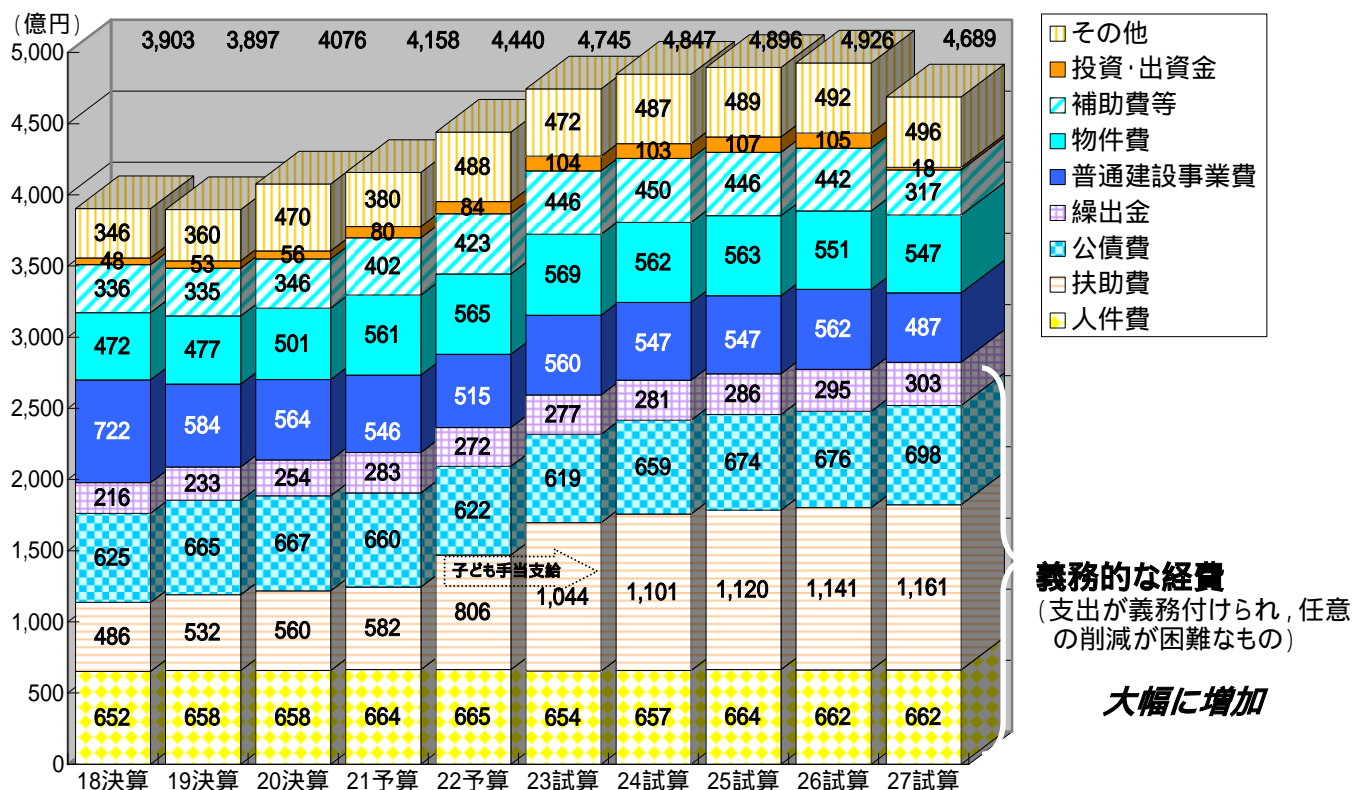
国・県支出金、市債などの特定財源については、扶助費の増や、東西線建設事業などにより、歳出に連動して増減する見込み。

- ・子ども手当は、23年度に更なる制度拡充が行われるものとして見込む。
- ・27年度は東西線建設事業が終息することから、市債の大幅減を見込む。

歳入不足に対応するための財政調整基金の活用可能額は減少していく見込み。

以上から、歳入については歳出に連動する特定財源は増加するものの、用途を限定されない一般財源の低い水準が引き続く見通し。

### 3 歳出の見通し



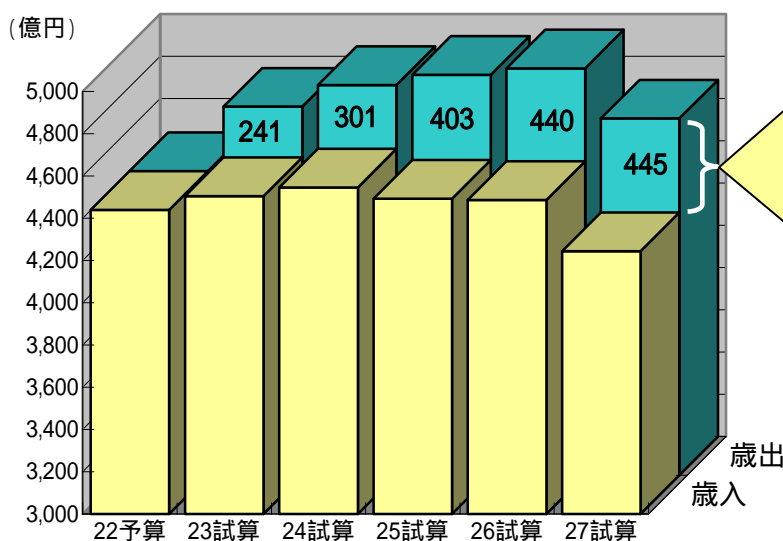
義務的な負担であり、削減が難しい次の経費は、今後も横ばい、又は増加していく見通しである。

- ・人件費は、人員の削減を継続的に行ってはいるが、退職者の増加により、総額は横ばいとなる見通し
- ・扶助費(低所得者、障害者、高齢者、児童等に対する各種支援のための費用)は、子ども手当の支給開始に加え、景気後退の影響による生活保護費の高い水準が継続する見通し
- ・公債費(学校、道路等の公共施設整備の際の借入金の返済費用)は、22、23年度に一時減少するが、東西線建設事業に係るこれまでの市債の返済などのため、24年度以降は再び増加に転じる見通し
- ・繰出金(国民健康保険事業、介護保険事業等に要する費用に対する市負担金)は、医療費の増加や高齢化等により確実に増加する見通し

出資金及び補助金は東西線建設事業の終息に伴い、27年度以降減少に転じる見通し

これまでは、これらの**義務的な経費の増加を、普通建設事業費(学校、市民センター、児童館、道路、公園などの公共施設整備費)の縮減などにより対応してきたが、施設の老朽化等を踏まえるとこのような対応にも限界があり、今後は、歳出総額の増加は避けられない。**

#### 4 収支見通し



22年度は、基金の充当範囲拡大や退職手当債発行などを行った上で、更に保有株式売却収入による収支差対策を行い、予算を編成

歳入総額の回復は見込めず、歳出総額が大幅な増加見通しであるため、**収支不足額は拡大**

23年度以降5カ年の収支不足見込額の総額は、**1,830億円**

(21年8月時見通し: 1,788億円 )  
22年度以降5カ年の収支不足見込額

#### 今後の対応

平成22年度は、退職手当債や行政改革推進債の発行、特定目的基金の活用範囲の拡大に加え、保有する株式の売却収入による収支差対策を講じ、予算を編成したところである。

このような対策に頼る予算編成を継続して行うことは不可能であり、今後実施可能な収支差対策は極めて限定的となっており、財政運営が一層困難となることが避けられない。

現行の税財政制度を前提とし、現在の事務事業の水準を維持すると、今後の財政運営の見通しが立たない。

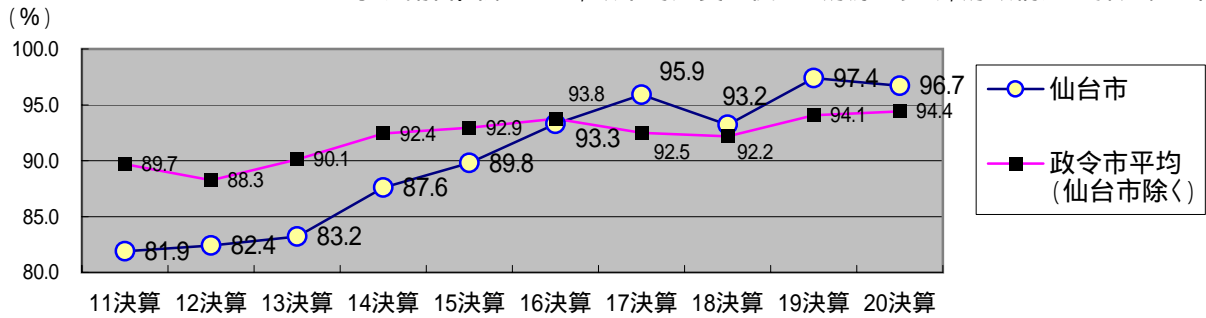
今後、事業の執行体制の見直しなどにより、管理、運営経費の削減を図ることはもちろん、事務事業の水準や費用負担の問題なども含め、聖域なく行財政改革を推進していく必要がある。

#### 財政見通しにおける試算の前提

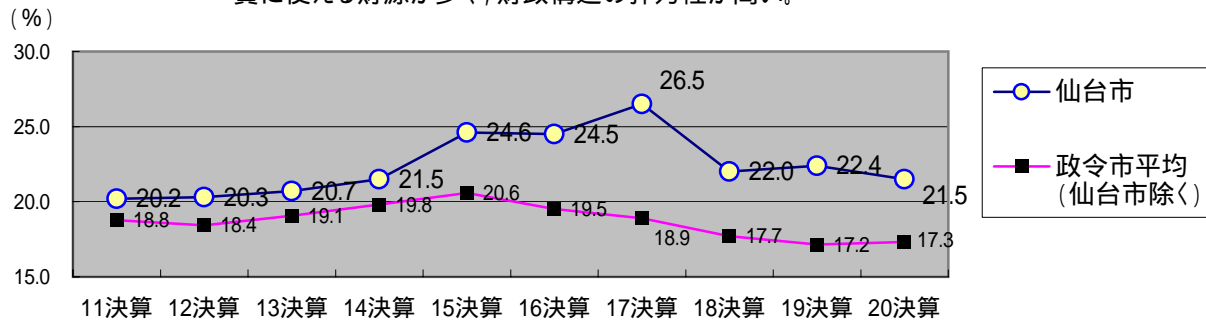
- ・普通会計ベース・事業費ベースで作成
- ・歳入については、現行の税財政制度を前提として、22年度以降の実施が確定している税制改正等を考慮して試算。特定財源は歳出見通しとの連動等を反映して試算
- ・歳出については、現在のサービス水準の維持を原則とし、個別事業計画による事業費の積み上げ等により試算
- ・行財政改革により、今後、実施される取組による効果額は算入していない

参考 仙台市の主な財政指標の推移(他の政令指定都市平均値との比較)

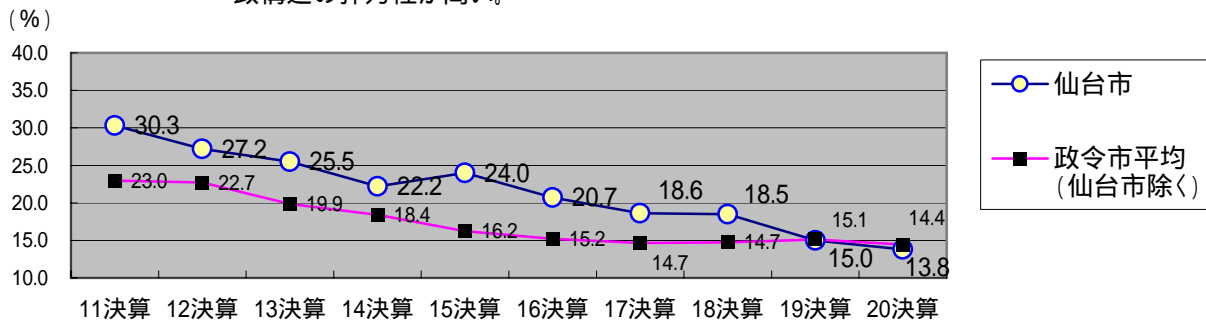
(1) 経常収支比率 ...経常一般財源(市税, 交付税等)が, 経常経費(人件費, 公債費, 扶助費等)にどの程度費されているかを示す割合。低いほど, 政策的経費に使える財源が多く, 財政構造の弾力性が高い。



(2) 公債費比率 ...公債費に充てられる一般財源の額の標準財政規模に占める割合。低いほど, 公債費以外の経費に使える財源が多く, 財政構造の弾力性が高い。



(3) 投資的経費比率 ...投資的経費(普通建設事業等)の歳出総額に占める割合。高いほど, 支出の自由度が高く, 財政構造の弾力性が高い。



20年度決算値は確定値

お問合せ先  
 仙台市財政局財政課  
 (電話)022-214-8113